

古事類苑

動物部十六

魚上

魚ハ、イヲ或ハウヲト云フ又酒食ノ菜ニ充ツルヨリ、マナ、或ハサカナト稱ス、又上代ニ於テハ、其大小ヲ分ツニ、鰐廣物^{ハタヒロモノ}、鰐狹物^{ハタサモコト}ノ稱アリ、魚ニハ淡水ニ在ルト、鹹水ニ在ルトノ別アリ、而シテ鰐魚^{ハゼ}ノ如ク、淡鹹ノ交ニ產スルアリ、鮭ノ如ク、河ヲ泝リ、子ヲ產シテ後海ニ入ルアリ、鮎ノ如ク、淡鹹ノ交ニ生ジ、河ヲ泝リ、再ビ淡鹹ノ交ニ歸ルアリ、鱸ノ如ク、河海ノ間ニ產シ、河ニ遡リテ秋季海ニ入ルアリ、鯧ノ如ク、淡水ニ生ジテ、漸次海ニ入ルアリテ一ナラズ、魚類ノ中ニ其成長ニ從ヒ、名ヲ異ニスルモノアリ、鯧、鱸等是レナリ、魚類ハ多クハ食用ニ供スレドモ往々毒アリテ害ヲ爲スモノアリ、河豚ノ如キハ、或ハ人命ヲ失フニ至ル、

鯨、鯢、鰐、山椒魚等ノ如キハ、古來魚類ト爲セルヲ以テ此ニ載セタリ、

名魚總載

〔倭名類聚抄十九〕魚 文字集略云、魚語居反和名字水中連行蟲之總名也、

〔段注說文解字十一〕魚蟲也、象形、魚尾與燕尾相似、其尾皆枝故象形非从火也語居切五部、凡魚之屬皆从魚、

〔類聚名義抄十〕魚 烹魚俗或通語居反、和字正

〔圓珠庵雜記〕魚はうろこあり、尾あれば鱗尾といふか、

〔日本釋名中魚〕魚 うろこ有ておよぐ故、うろこのうと、およぐのをとれり、或曰うかびをよぐ故にうをと云、一説に多しと云意、魚は海河に多くして、つねにとれどもつきず、おほとうをと通音